



笠間市ゼロカーボンシティ宣言を表明

宣言表明の日:4月1日(木)

笠間市では、令和3年3月に第2次笠間市環境基本計画を見直し、地球温暖化対策とごみ減量化に対する取り組みを強化し、令和2年7月に宣言したプラスチックごみゼロ宣言と併せた「環境負荷ゼロへの挑戦」として、ゼロカーボンシティを宣言します。

【宣言までの経緯】

環境省ではCO₂の排出を2050年までに実質ゼロ※とすることを旨とする旨の表明を、首長自ら又は地方自治体として公表した自治体を「ゼロカーボンシティ」としています。

実行性の乏しい宣言では意味がないため、どのようにすれば早期の実現が可能かをこれまで模索してきました。

今般、国では、石炭火力発電の廃止に向けた検討や、乗用車新車販売での電動車100%の実現、地方自治体への温暖化対策に向けた工程表の作成など、私たちを取り巻く環境への対応意識が大きく変化してきており、地方自治体に対しても積極的な取り組みが求められています。

市において地球温暖化対策を進めるには、各部署の事業計画の見直しや財政的な負担増が伴うことから、市全体の地球温暖化対策の目標等を定め、全庁的に取り組んでいく必要があるため、以下の「今後の取り組み」を国や県と連携し、継続的に実施していく決意の証として「ゼロカーボンシティ宣言」を、表明することとしました。

【今後の取り組み】

温室効果ガス(CO₂)削減と廃棄物プラスチックの削減に向けた取り組みを実施します。

◇市民に対して

- ・環境寺子屋のWeb配信などによる環境教育の充実を目指します。
- ・環境サポーター制度の導入による環境への取り組み体制の充実を図ります。

◇事業者に対して

- ・資源物回収品目の拡大や店舗の拡充により、分別回収の充実を図ります。
- ・事業者と行政の意見交換会の開催などにより、相互の事業連携を強化します。

◇滞在者(観光者)に対して

・CO₂排出量の削減を目指したシェアサイクルなど、環境に配慮したモビリティの活用を推進します。

◇行政として

- ・市役所内で率先したワンウェイプラスチックの削減対策を実施します。
- ・公用車の低燃費車両への移行などにより、環境に配慮した整備に努めます。
- ・森林の適正管理を促進し、CO₂吸収源の確保を図ります。

※排出量実質ゼロ:CO₂などの温室効果ガスの人為的な発生源による排出量と、森林等の吸収源による除去量との間の均衡を達成すること

この件に関するお問い合わせ

笠間市役所 環境保全課 担当:大内

電話番号:0296-77-1101(内線125) ファックス番号:0296-77-1146 e-mail:kankyo@city.kasama.lg.jp

環境負荷ゼロへの挑戦

(ゼロカーボンシティ宣言)

私たちから、今も排出され続けている温室効果ガスの増加によって、今後、猛暑や豪雨被害などの頻発化や激甚化が予想されております。

2015年に合意されたパリ協定では「産業革命前からの平均気温上昇を2°C未満とし、1.5°Cに抑えるよう努力する」との目標が国際的に広く共有されましたが、2018年に公表されたIPCC(国連の気候変動に関する政府間パネル)の特別報告書では、この目標を達成するためには、「2050年までにCO₂(二酸化炭素)の実質排出量をゼロにすることが必要」とされております。

地球温暖化対策は、国、地方自治体、事業者、国民といった全ての主体が参加・連携して取り組むことが必要であり、地方自治体には、自ら率先した取組を行うことで、区域の事業者や住民の模範となることが求められております。

本市は、八溝山系に属する鶏足山塊につつまれ、中央には涸沼川の悠久の流れに臨み農地や平地林が広がる、豊かな自然に恵まれた静かで落ち着いたまちです。平成28年3月に「第2次笠間市環境基本計画」を策定し、望ましい環境像「豊かな自然との共生 水と緑の里 かさま」の実現に向けて様々な施策を推進してまいりましたが、近年の気候変動による影響の深刻化をはじめ、生物多様性の保全の必要性など、環境問題を取り巻く状況は激変し、新たな取組が必要とされております。

このことから、市としては、これらのかげがえのない財産を守り、未来の子どもたちに豊かな自然を残すため、CO₂の排出量を2050年までに実質ゼロとする取り組みを継続的に実施していく決意の証として「ゼロカーボンシティ」を宣言いたします。

令和3年4月1日

笠間市長 山口 伸樹